

## H30年度 自己評価・自己点検のまとめ

H31.3.29

認定こども園 みどりのかぜ北ウイング

### 1、 自己評価

保育環境の整備について

- 月案・週案は計画しているものの計画倒れになって見通しがないままで保育をしていないか、または、計画に伴った準備・段取りが出来ているかどうかで、保育の中の大事な流れを大きく左右することを、常に念頭に置いていかなければならない。毎日の流れにまかせることが多々あり、結果時間を有効に使えなかったり、子どもたちの意欲を十分に引き出すことが出来なかったりと課題が多く取り上げられた。また、物的な環境として危険箇所や破損しているところはないか等の安全点検が徹底されず、時間が経過してからの報告・修繕になってしまうこともあり、危機管理意識の希薄さも考えなければならない。

<改善策> 保育計画に関しては、マンネリ化にならないように、一工夫を心がける必要がある。「いつも通りだから」という意識ではなく常に、子どもが遊び込めるにはどのようにしたら良いかを考え立案することを徹底していきたい。  
部屋の物品や備品等は、それぞれが責任をもって整理整頓を心がけ、係だけではなく職員が同じ意識で安全管理を行うことができるように働きかけていきたい。

進行業務について

- 園行事の役割分担、進行の仕方、企画の立て方等に課題を抱えていることもあり、円滑なチームワークを目指すためにはどうしたら良いか・考えなければならない。行事のリーダーだけが、意識することではなく一人ひとりがリーダー意識をもたなければ、他人任せになってしまい、状況を把握することができない。その結果、前回の反省点を活かすことができず、進展のないものになってしまうことが多々ある。  
常に、子ども視点でアイデアを出し合い、内容を精査し、より良いものを目指していきたい。

<改善策> 行事等が出された反省点は、次に必ず繋げていけるものにし、記録をしっかりと残し管理するように心がける。  
早い段階での準備を徹底し、内容を把握し細かい点についての確認、配慮を欠かさずに行うようにする。

## 職場内の関わりについて

○職員間又は上司とのほうれんそうほうをしっかりと徹底させること。

また、保護者からの伝達事項などを確実に引き継ぎすることの大切さを念頭に置きたい。会議の内容や共通理解を図る重要なことが、うまく伝わらず、連携不足が目立った。職員間だけではなく、保護者への信用問題にも繋がってくることもあるので、十分気を引き締めていかなければならない。

<改善策> 「報告—連絡—相談—報告」はチームの基本である。

指示の内容を素早く正確に把握し、メモの習慣をつけていく。報告はタイミングよく正確に行い、常に組織の一員であり自己の役割に責任を持つようにした。

## 2. 自己点検の分析

### ①職員の意識改革

目の前にある事に没頭し過ぎて全体を見る意識、気に掛ける意識が希薄になっている。自分の役割を果たすことはもちろんだが、それだけで満足してしまうと園全体としてのバランスが崩れていくことに繋がってしまう。

特に、若い人を指導していく立場にある職員は、自分の責務として捉えて働きかけていくことが重要となってくる。今後、職員一人ひとりに根付いていかななくてはならない課題である。

### ②危機管理

保育の現場の人間として、園児の安心、安全を第一の責務として考えなければならない。

毎月行っている避難訓練は徹底されており打ち合わせ、実施後の反省会は職員間で話し合いがもたれている。しかし日常又は想定外の危機意識に関しては、職員間での共通理解が不十分なところもあり、職員全体としての園内外危機管理体制や対応の仕方をしっかりと把握することが課題となっている。

また、当園は「福祉避難所」として指定を受けていることもあり、更に有事に対する心がけをしっかりと共通理解し、備えておく必要がある。

### ③保護者との関わり

保護者の対応はとても重要である。一日の大半を過ごす子どもにとって、保護者はいかに子どもが楽しく安全に過ごしているかが一番知りたいところでもある。送迎のわずかな時間でも、一日の様子の一言の積み重ねが信頼を築く源となる。引き継ぎや伝達事項は確実に行うこと、また大きなトラブルや誤解につながる事のないように、相談事等は上司に迅速に正確に伝えることを心がけたいものである。

### ④環境整備

保育に直接的な環境整備として、衛生保持にもつながってくる感染予防の対策又は施設設備の安全点検などは担当者だけではなく、職員一人ひとりが同じ意識を持ち取り組まなければならない。各部屋はもちろんのこと、公共の場でも気がついたらさっと手をかけることなど、見えないところへの気配りも忘れずにいつも心しておきたい。

そして、子どもたちの心身の健康と情緒の安定が図られるよう保育環境を整えることが重要である。

### 3. まとめと今後の展望

#### <園全体として>

職員一人ひとりが気づき、考え、実行するという意識を定着させていきたい。

小さな事でも、自分の事として物事を捉え考えて行動することにより、周囲を見通力にもなってくる。

また、職員間の連携もスムーズになり保護者との信頼関係も築きやすくなることを踏まえ、どんな場面でも意識の持ち方ひとつで変わってくることを念頭において職務にあたっていきたい。

そして、個々の向上心や立場に基づく研修を充実させ、保育者としての資質の向上に努め、常に研究心をもって取り組んでいきたい。

#### <スタッフとして>

自己の反省点や課題を再確認しながら自園の見直しを図った。与えられた仕事だけではなく、全体的なことにも目を向け、細かな配慮も忘れてはならない。

更に、個々の反省と課題を改善していこうと努力する姿が、職員間の中に良い刺激として根付いていくように力を注いでいきたいと共に、一人ひとりの主体性が、より良い園を作る原動力となっていくことを期待したい。